



新潟市歴史博物館  
博物館ニュース

# 帆樫成林

Vol.65

# 帆樫成林

—はんしゅうせいりん—

2025年5月5日 たいけんプログラム「たこを作ってあげよう」の様子

新潟市歴史博物館 博物館ニュース vol.65

「帆樫成林」とは？

帆柱が林のように多く立つ様子を表した語。  
人が多く出入りする活気ある「みなと」をイメージしました。

## CONTENTS

<b>特集1</b>	<b>広域合併20周年とみなとびあ</b>	<b>P.2~3</b>
<b>特集2</b>	<b>第22回むかしの暮らし展「暮らしの中のあたりまえ いまむかし」</b>	<b>P.4</b>
歴史さんぽ	魚町	P.5
おすすめの一冊	「風呂と愛国「清潔な国民」はいかに生まれたか」	P.5
特集3	大新潟映画展覧会 娯楽の王様《キネマ》100年物語	P.6
館長日記	中国西域の古城で浄足欄をおもむ	P.7
収蔵資料紹介	金塚家資料「西蒲原、中蒲原郡地形図」	P.7

帆樫成林「はんしゅうせいりん」第65号  
編集・発行／新潟市歴史博物館 〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10  
印刷／株式会社博進堂 発行日 令和7年9月11日

## 次回企画展

### 第22回むかしの暮らし展 暮らしの中のあたりまえ いまむかし

私たちは電気やガス、水道を使い、安全で快適な毎日を送っています。学校で学び、遠くの町にも手軽に出かけることができるようになっている。この、私たちのあたりまえは、いつからあたりまえになったのでしょうか。この暮らしがあたりまえになる前はどのような暮らしだったのか、暮らしの移り変わりを学んでいる小学生にもわかりやすく紹介します。

**会期** 2025年9月13日(土)～11月24日(月振)  
**開館時間** 午前9時30分～午後5時(観覧券の販売は閉館30分前まで)  
**観覧料** 無料  
**休館日** 毎週月曜日(9/15・9/22・10/13・11/3・11/24は開館)、9/16(火)・10/14(火)・11/4(火)

■ **暮らしの道具、つかってみよう(衣類編)**  
日時: ①9月20日(土) ②9月21日(日) 午後2時～3時(雨天中止)  
会場: 本館1階たいけんのひろば  
参加費: 無料  
定員: 各回小学生10名  
申し込み: 不要

■ **暮らしの道具、つかってみよう(カマシキづくり)**  
日時: 11月22日(土) 午後2時～3時30分  
会場: 本館1階企画展示室  
参加費: 200円  
定員: 小学生以上10名  
申し込み: 必要、先着順、10月22日(水) 午前9時30分より受付開始

■ **新潟駅前 いまむかしたんけん(まちあるき)**  
日時: 10月25日(土) 午後2時～4時  
講師: 岩野邦康氏(新潟市新津鉄道資料館学芸員)  
集合・解散: 新潟駅万代口  
参加費: 100円(保険代・資料代)  
定員: 小学生以上15名(小学生は要保護者同伴)  
申し込み: 必要、先着順、9月24日(水) 午前9時30分より受付開始

## 次回以降の企画展

### 「大新潟映画展覧会 娯楽の王様《キネマ》100年物語」

テレビより映画館が身近だったころ、映画は多くの人と共に楽しめる娯楽でした。昭和の人気映画ベストテンや映画館の盛衰、新潟ゆかりの映画人のほか、70年以上前の貴重な新潟口映画などから、映画が新潟の人々を魅了した時代を振り返ります。

**会期** 2025年12月6日(土)～2026年1月25日(日)  
**休館日** 毎週月曜日(1月12日(月)は開館、12月28日(日)～1月3日(土)、1月13日(火))

### 《みなとびあ歴史発見プロジェクト 特別歴史講演会》大化改新前後の飛鳥と難波—浄足欄の時代—

**日時** 2025年11月24日(月振) 午後2時～3時30分  
**講師** 相原嘉之 氏(奈良大学文学部教授)  
**会場** 万代市民会館多目的ホール(新潟市中央区東万代町9-1)  
**【定員】** 250名(申し込み多数の場合は抽選)  
**【参加費】** 500円  
**【申し込み期間】** 9/18(木)～11/12(水)(必着)

## 博物館講座

当館学芸員が調査・研究をすすめているテーマについてお話しします。  
**【時間】** 10時30分～12時 **【会場】** 本館2階セミナー室  
**【申し込み】** 要事前申し込み(定員80名程度) **【参加費】** 無料

- ◆ **9月の講座: 9月28日(日)** ※申し込み開始: 9月10日  
「新潟奉行川村修就関係資料」を読む 講師: 安宅俊介
- ◆ **10月の講座: 10月26日(日)** ※申し込み開始: 10月8日  
越後の前方後方墳を考える 講師: 小林隆幸
- ◆ **11月の講座: 11月23日(日)** ※申し込み開始: 11月5日  
明治期東京土産写真からみる東京の姿と新潟 講師: 若崎敦朗
- ◆ **12月の講座: 12月21日(日)** ※申し込み開始: 12月10日  
「上杉びいき」?江戸時代新潟の人々と上杉家 講師: 田嶋悠佑

## みなとびあ便り

みなとびあには会員制の「みなとびあファンクラブ」があります。みなとびあを応援したい!と思ってくださる方ならどなたでも入会いただけます。会期は10月1日～翌年9月30日の1年間で、クラブ費は年間600円です。

特典は、観覧料2割引引きや館情報の送付(この「帆樫成林」もお送りしています!)のほか、会員限定イベントへの参加です。イベントのひとつに館長と行くバスツアーがあります。今年6月開催のバスツアーでは、坂井館長と一緒に上越市高田の城下町を訪ねてきました。そのほかにも、会員限定の講演会やまちあるきなども開催しています。

興味がありましたら、10月1日からの新しい会期が始まるこの機にどうぞご入会ください。(企画普及課 渡辺)



## お知らせ

■ 2025年12月28日(日)～2026年1月3日(土)まで年末年始のため休館となります。

## 旧小澤家住宅展示

- **新潟郷土会展「一時代と共に生きる切手の世界—」** 会期: 9月13日(土)～10月5日(日)
- **「新潟仏壇工芸展」** 会期: 10月11日(土)～11月3日(月振)
- **「新潟の文人 池田孤邨」展** 会期: 11月15日(土)～12月21日(日)
- **「羽子板」展** 会期: 1月4日(日)～1月18日(日)

開館時間: 午前9時30分～午後5時 休館日: 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始  
入館料: 一般260円 小中学生130円(小中学生は土・日・祝日は無料)  
所在: 新潟市中央区上大川前通12番町2733 (みさとびあから約800m、徒歩12分) TEL:025-222-0300

## 編集後記

今回の特集は新潟市が合併して20年を振り返りました。合併前は別個に歩んできたそれぞれの地域を、新潟市という一つの地域としてどのように捉えるか。みなとびあは各地域の社会・経済・文化の諸分野にわたる歴史・文化の成り立ちとつながりを共有する取り組みによって、地域住民の一体感を深める基盤づくりに寄与していきたいと考えております。(貝沼)

## お問い合わせ・申込みは博物館まで

**新潟市歴史博物館 みなとびあ**  
住所: 〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10  
Tel: 025-225-6111 Fax: 025-225-6130  
E-mail: museum@nchm.jp URL: https://www.nchm.jp  
【休館日】 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始(12/28～1/3)  
【開館時間】 9:30～17:00

2025.6月現在

みなとびあ歴史発見プロジェクトは、こどもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史に親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、新潟の街をみんなで盛り上げていこう!という事業です。

「みなとびあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体のみなさんからご協賛をいただいています。



(順不同)



# 広域合併二十周年とみなとぴあ

森 行人

新潟市は平成十三年の黒崎町との合併を経て、平成十七（二〇〇五）年三月に新潟市・白根市・豊栄市・小須戸町・横越町・亀田町・岩室村・西川町・味方村・湯東村・月潟村・中之口村、さらに十月に巻町と合併しました。広域合併から二十周年の節目に、みなとぴあの広域合併をめぐるこれまでの活動を振り返り、これからの取り組みについて考えます。

## 広域合併をめぐる みなとぴあの企画展図録から

平成十七年の夏、合併を記念して「蒲原のあけぼの」展を開催し、合併市町村で発見された考古学的遺産を通して新生新潟市のルーツを探りました。タイトルの「蒲原」は、信濃川・阿賀野川が日本海に流れ出る地域一帯の名称であり、古代の郡名でもあるこの地名を通じて、蒲原郡の過半を市域とする新生新潟市が古来より水上交通によって人・物・情報が行き交う要衝であったことを示すねらいがありました。以後、蒲原は、当館事業のキーワードの一つとなっています。

平成十八年の夏には、合併記念展として「新潟の舟運」展を開催しました。海・湯・川・堀などの水路を結んだ舟運をテーマに、日本海側最大の越後平野に展開した村や町の生産と消費が湊町新潟の歴史像を提示しています。

## 新潟市の 歴史系博物館・資料館の活動

平成の広域合併後、市域各地の歴史資料の保存と公開については、当館を含む新潟市の歴史系博物館・資料館が取り組んでいます。当館では平成十七年から、新潟市の歴史系博物館・資料館懇談会を開催し、意見交換や各館の企画展・イベント情報を取りまとめ、市内外に向けて発信しています。

合併以前に設置された館では、それぞれの地域の歴史や先人の業績を伝える役割を担っていました。合併後の各館の条例等にも、その設置目的や事業として地域の歴史や先人に関する資料を保管・公開することを記し「表」、収蔵スペースの問題等もありますが多くの館で新たな資料の収集について記しています。

合併以前、各館で収集・展示してきた資料はそれぞれの地域の特徴ある歴史、地域性を示すものでした。現在の新潟市においては、これらの資料群はそれぞれの地域の特色を示す一方、地域間の歴史的な関わりや市域に共通の生活文化の広がりを知る手がかりにもなります。

## 広域合併二十周年を迎えて

合併の効果をまちづくりで活かすた

繁栄を支えたことを紹介し、合併した新市域が舟運を通じて緊密に結びつき、深く関わり歴史を紡いできたことを示しました。

さらに政令市に移行した平成十九年には、政令市移行を記念して、「古写真の中の新にいがた」展を開催しました。景観やくらしの諸相といったテーマ毎に明治後期から昭和中期までの写真を展示し、新たに八つの行政区が敷かれた新市域の変遷をたどりました。

また、市域各地の古写真を見比べることで、市域が共通の生活文化を持つ一つの地域であるとともに、それぞれ違いを持った地域でもあることを紹介しました。図録の挨拶には、合併後一年が経過し、新しく区が敷かれたタイミミングでの開催には、企画展を通じて合併地域のかつての姿を知り、互いにわかり合うとともに、政令市新潟への理解を深め、新潟市民としての一体感を持つ機会となるようとの願いが記されています。

以後、個別のテーマ・視点から新市域の歴史を紹介する企画展を開催し、特に「船と船大工」展や「蒲原平野の二十世紀」展といった、信濃川・阿賀野川の平野部流域と水に関わる視点での企画を通じて、新潟市の特色ある歴史像を発信してきました。

めには、合併以前それぞれ個別に歩んできた地域の住民が、市民として一体感を持つことが必要になります。一方、まちづくりには、自分たちがくらす地域への愛着が欠かせません。前述の歴史系博物館資料館の活動を通じて、くらししている地域の歴史を知り、さらにそれぞれの地域の成り立ちと地域間の関わりについて理解を深めることは、まちづくりにも寄与できるものと考えます。

これからのみなとぴあの活動では、こうしたそれぞれの地域の歴史や生活文化の結びつきへの理解を深め、共有できるプロセスを重視して取り組んでいきます。

当館では開館二十周年を機に「新潟市歴史博物館・旧小澤家住宅の運営方針」を定めました。今後目指す指針として、資料や地域に残る文化遺産などから当地域ならではの歴史的特性を明らかにし、また多様な主体と連携して地域の活性化に寄与することを掲げています。広域合併時からの取り組みを継承して、みなとまち新潟を結節点とする越後平野の信濃川・阿賀野川両河川流域の歴史的なつながりを明らかにするとともに、その成果を各地域のまちづくり団体と連携したツアーの開催やミュージアムシアターの新たな作品に活かしていきます。

また、行政区画にとらわれず、新潟市の地形から文化圏を考える企画「いがた／浜・湯・山の歴史とくらし」という歴史講座シリーズは四年目を迎えています。年度毎に設けたテーマに基づき、合併町村の枠を超えた全市的な視点か

## 過去の広域合併における 取り組み

昭和期の新潟市の広域合併における取り組みも振り返ってみましょう。合併は国の施策として、市町村の行政事務の権限拡大とその他の財政強化を目的に進められました。昭和二十九（一九五四）年の町村合併推進法を機に、昭和二十年代から三十年代にかけて合併が強く推進されました。さらに新潟市では、この時期近隣町村との合併による「大新潟市構想」を打ち出し、文化的交流・経済的関連性・地理的条件等を考慮して合併対象を検討していました。新潟市は昭和十八（一九四三）年の大形村・石山村・鳥屋野村と合併の後、昭和二十九（一九五四）年から同三十六（一九六二）年にかけて松ヶ崎浜村・南浜村・濁川村・坂井輪村・大江山村・曾野木村・両川村・内野町・豊栄町の一部・中野小屋村・赤塚村と合併しました【図】。

この昭和の大合併を経た昭和四十四年度から、新潟市は「新潟市合併町村の歴史」編纂事業に着手します。この事業は、合併町村の資料収集と記録化、それに基づく史料編の刊行、新潟市を含む合併町村の近代の歩みを知る新聞報道の資料化を柱として進められ、十七年の歳月をかけて基礎史料集九巻、資料編五巻、通



図：新潟市の合併概念図（「古写真の中の新にいがた」展図録より）

史編四巻、史料目録一巻、研究報告六冊が刊行される大事業となりました。収集した合併町村の史料に基づき、各地域の社会・経済・文化の歩みを通史として明らかにしました。その通史第編四巻に寄せられた新潟市長の渡辺浩太郎の序文には「各地区の今日までの苦難の道と歴史を記録にとどめ、後世に残す一方、今後の『市発展の一助』として有意義に活用いただければ幸い」と記されています。「合併町村の歴史」編纂の後には、その成果も踏まえて新たな「新潟市史」が編ま

ら考古資料・歴史資料・民俗例等から新潟市の歴史とくらしを振り返っています。テーマに関わる土地を実際に歩くとともに、地域の特徴ある歴史資料を収蔵する施設の見学を行っています。このように新しい視点で新潟市域の歴史・文化をとらえるとともに、合併後に一

つにまとまった新潟について、改めて各地域の社会・経済・文化の諸分野にわたる歴史的な成り立ちとつながりを確かめ、共有することで、地域住民としてのアイデンティティを培うことにも寄与できると考えています。

（もり ゆきひと 学芸員）

懇談会参加館名	資料に関わる条文 ※各館条例等より抜粋・（ ）の補記等一部改変
新潟市北区郷土博物館(北区)	(事業)第2条(1)北区の考古、歴史、民俗、美術等に関する資料の収集、保管及び展示に関すること(2)資料の調査研究及びその成果の公開に関すること
新潟市文書館(北区)	(事業)第2条(1)特定歴史公文書を保存し、一般の利用に供すること(2)本市の歴史に関する資料の収集及び調査研究を行うこと(3)所蔵資料の公開及び活用を促進し、市民等の調査研究を支援すること
新潟市江南区郷土資料館(江南区)	(事業)第2条(1)江南区の考古、歴史、民俗、美術等に関する資料の収集及び保存並びに公開その他の活用に関すること(2)資料の調査及び研究に関すること
石油の世界館(秋葉区)	(別表 第5条関係 事業) (1)石油に関する資料の収集、保存及び展示に関すること(3)本市における歴史的文化所産の調査研究、収集、保存及び展示に関すること
新潟市新津鉄道資料館(秋葉区)	(事業)第2条(1)(鉄道に関する)資料の収集、整理、保存、調査及び研究を行うこと(2)資料の展示及び公開を行うこと
重要文化財旧笹川家住宅(南区)	(設置)第1条 旧笹川家住宅を活用し、味方地区の歴史資料、民俗資料その他の資料を保存し、及び公開すること
新潟市しろね大鳳と歴史の館(南区)	(事業)第2条(1)白根地区の歴史、文化及び国内外の脈に関する資料の収集、保管及び展示に関すること(2)資料の調査及び研究に関すること
新潟市曾我・平澤記念館(南区)	(事業)第2条(1)(曾我量深及び平澤興の遺品及び関係蔵書)資料の収集、調査及び研究に関すること(2)資料の公開及び研究に関すること
新潟市文化財センター(西区)	(事業)第2条(1)埋蔵文化財の調査及び研究に関すること(2)発掘調査等により出土した考古資料の収集及び保存並びに公開その他の活用に関すること(3)有形民俗文化財の保存及び活用に関すること
新潟市澤将監の館(西蒲区)	(設置)第1条 中之口地区の民俗資料等を保存し、及び公開すること
新潟市岩室民俗史料館(西蒲区)	(事業)第2条(1)岩室地区の歴史、民俗、考古等に関する史料の収集、整理及び保存並びに公開その他の活用に関すること(2)史料の調査及び研究に関すること
新潟市湯東歴史民俗資料館(西蒲区)	(設置)第1条 湯東地区の歴史資料、民俗資料、考古資料その他の資料を保存し、及び公開すること
新潟市中之口先人館(西蒲区)	(事業)第2条(1)(中之口地区の先人に関する)資料の収集、整理及び保存並びに調査及び研究に関すること(2)資料の公開及び展示に関すること
新潟市巻郷土資料館(西蒲区)	(事業)第2条(1)巻地区の考古、歴史、民俗等に関する資料の収集、整理、保管及び展示に関すること(2)資料の調査及び研究に関すること
新潟市文化財旧小澤家住宅(中央区)	(事業)第2条(2)みなとまち新潟の歴史及び生活文化に関する資料の保存及び展示をすること
新潟市歴史博物館(中央区)	(事業)第2条(1)歴史資料の収集、整理及び保存並びに調査及び研究を行うとともに、その成果を公開すること(2)歴史資料等の展示を行うこと

表：条例等に資料に関わる条文がある懇談会参加の歴史系博物館・資料館 【出典】「新潟市例規集」より2025年8月6日時点



今年のむかしのくらし展は「あたりまえ」がキーワードです。展示の主な観覧者層で、むかしのくらしについて社会科で学び始める小学校三・四年生が「あたりまえ」のことと知っている身の回りのことがらがテーマです。それらがいつからあたりまえのことになったのか、その前の時代は何があたりまえであったのか、「あたりまえ」とされることの移り変わりを考える展示会です。

展示では、学校のこと、家の中のこと、町の中のことからいくつか選んで紹介する予定です。本稿ではその一つである給食について紹介します。

先日、日和山小学校にお邪魔して、今の給食の様子を撮影しました。献立は、もちこしごはん、牛乳、なすとかぼちゃのそぼろあんかけ、もずく入りかきたまじる、冷凍パンでした。

新潟市では新潟市産・新潟県産の食材を積極的に取り入れた給食を児童に提供しています。平成二十一（二〇〇九）年に、新潟市全域で完全米飯給食が実施され、温かいご飯と地元食材を使ったおかずが今の子どもたちにとって「あたりまえ」の給食です。しかし、給食の歴史を紐解いてみると、それがあたりまえになるのはつい最近のことです。

新潟市における給食は昭和七（一九三二）年、不況と凶作からの貧困による欠食児童が社会的に問題になった時期に始まりました。栄小学校の昭和七年の昼食

調査では、全校児童二六三人のうち、弁当を持参した者と家に帰り食事をする者はほぼ半数ずつでした。うち、栄養や食事に問題がある者が一八パーセント、加えて一五パーセントが欠食児童でした。

給食はこうした児童に向けて食事を与えるものでした。一部の小学校では学校内に調理室を作り、給食を実施しました。当時の献立例は七分づきのごはん、めざし、ほうれん草、香の物で、子どもたちに好評だったのは煮しめやさつまいもだったそうです。貧困家庭の児童に向けた給食ではありましたが、給食を食べることもたちが家庭環境のことで引け目を感じることもがないよう、貧困家庭以外でも希望する家庭は実費を払い、同じ献立を食べることができるよう配慮されていました。

アジア太平洋戦争終結後は食糧不足で、多くの人が飢えに苦しみました。そんな中、GHQが主導し学校給食が始まりました。占領政策の一つとして、次代を担う子どもたちに栄養のある食事を与え、日本再建の礎とするのが目的でした。小学生を対象に、旧日本軍の備蓄缶詰やアメリカからの支援物資などが食材になりました。新潟市では昭和二十二年一月から始まり、戦後初の給食は鮭缶と大根じやがいも、ニンジンのお味噌汁でした。

戦後直後から長年新潟市の学校給食行政を支えた栄養士の若松和子さんの手記によれば、戦後直後の給食ではアメリカからの支援物資を扱うため、食材の横流

しなどの間違いがあれば沖繩に連行され重労働の刑罰を受けるだろうと、給食に関わる職員は緊張の中、職務を行ったそうです。ある意味、命がけの仕事だったことが想像できます。

また、終戦後の給食で特筆すべきは沼垂小学校の「ユニセフ給食」です。全国五四校の小学校が選ばれ、一年間、ユニセフ（国際連合児童基金）から提供を受けた脱脂粉乳の給食を実施し、給食を食べた児童の健康状態を、そうでない児童と比較調査するというものでした。

沼垂小では、昭和二十四年十月二十四日からユニセフ給食が始まり、児童は朝と昼に決められた量のミルク（調理した脱脂粉乳）を毎日飲まされました。食生活が変わり、栄養の偏りや脱脂粉乳のとり過ぎで当初は腹痛や下痢を訴える子もいたようです。その後、栄養バランスを取るために、パンとおかず、ミルクの完全給食が児童に提供されるようになりました。

新潟市内の多くの学校で昭和二十六年二月からパン・ミルク・おかずの完全給食が始まりました。昭和二十九年には学校給食法が制定され、「国民の食生活の改善に寄与する」として、学校給食が普及充実していきました。またこの法律で給食は教育活動の一環と位置づけられ、栄養指導や食事作法の指導が行われるようになりました。

次の大転換点は昭和五十二年の米飯給食の開始です。国内の余剰米の消費対策

年の何月で、取揚高が幾ら、取締役が何様なんて云ふに及ばぬ。読んで面白ければ、それで充分なり。尚ほ釣られて見に行けば、望み足れり矣だ。新潟は女郎と芸者と許りが名物にあらず。魚の獲れたやうな日、出掛て見給ひ。ヘン生きた魚が跳ねてるヨ。

魚市場はその後、柳島を経て万代島（東港線市場）に移った後、平成19年に江南区茗荷谷の中央卸売市場に移転しました。

安宅 俊介（あたか しゅんすけ 学芸員）

\*「ワァ／＼」の「／＼」は「々」に相当し、「ワァワ」と読む（以下同）。



絵葉書 株式会社新潟鮮魚問屋魚市場 当館所蔵



現在の本町通11番町

歴史さんぽ

魚町

中央区本町通11番町は、かつて「本町通十四軒町」という町名でした。通りに面し、向かいあって屋敷が並び、特にその西側ブロックは「魚町（肴町）」と呼ばれた魚市場でした。これらの屋敷はそれぞれ魚問屋であり、魚のセリが行われていました。

ちなみに江戸時代の新潟町では、こうした魚問屋を「大助買」と呼んでいました。大助買は魚の売買時に手数料をとったり、遠方から漁をするためにやってくる漁船（客船）の宿をつとめたりしていました。

また、魚町とその周辺に多く居住し、魚の小売や仲買を専らにしていた商人を「小助買」と呼んでいました。小助買は大助買や地元の漁師から魚を仕入れ、天秤棒を担いで魚を振売していました。

少し時代は下って、明治42（1909）年2月の雑誌「新潟繁昌記」に「魚市」という記事が載っています。まるで喧騒が聞こえてきそうな躍動感あふれる記事です。

只だ見る人の山。ハテ喧嘩でも始まつたのではあるまいか。男は茂尻袖の着物。それを裾を七分三分にタクシ揚げて、此の寒いのに素裸足と来て居る。オ、涼しいな。女は又た火事場手伝へ宜しくと云ふ体裁。紺湯布は自慢に見せて居るかのやう。それが入りまちつてワァ／＼云ふ。さうかと思ふと忽ちにしてチリ／＼バラ／＼。又たワァと集まる。天秤棒が飛んで策が舞う。売つた売らんヤツサモツサ。之れ本町十一魚市場の光景。何を云つても新潟一の名物。否な／＼北陸道第一の名物。創始が何

おすすめの1冊

風呂と愛国 「清潔な国民」はいかに生まれたか

新潟奉行川村修就の法令などを読んでみると、江戸時代と生活習慣が大きく異なるのに驚きますが、大きく違うもの一つは入浴習慣です。本書は、「日本人は風呂好きで、清潔好き」といわれることについて、歴史資料から実態を丹念に調べ、こうした日本人観が形成された背景を探ったものです。

明治時代になっても、日本国内の人々が毎日入浴するのはまれだったようです。しかし、明治三十年代に日本が外国と対抗する中で、「日本人は清潔である」ことが優れたこととして主張されはじめ、大正時代には公営銭湯なども設置されて国をあげて入浴が奨励されました。昭和戦前にかけて家庭や学校でも入浴の推奨がなされるようになり、健康な国民が国家のために役立つという思想などが背景にあるものだったとされます。

本書内でも言及がありますが、最近に入浴に対する考え方も多様化しているようです。本書を読んで歴史的背景を調べてみるのはいかがでしょうか。

（田嶋 悠佑 学芸員）



川端 美季 著  
2024年  
NHK出版 発行



「ミルクの配膳」旧豊照小学校にて（昭和三十年代か）

# 大新潟映画展覧会

## 娯楽の王様《キネマ》100年物語

中村 里那

かつて新潟市街のあちこちに映画館がありました。とくに古町通は、通りを歩くだけで四、五館をめぐることができたほどです。

新潟で最初に映画(当時は「活動写真」)が上映されたのがいつか明確にはわかりませんが、明治三十七(一九〇四)年には、新聞に日露戦争の戦況を伝える実写映画の予告がいくつか掲載されました。これは芝居などを行う劇場で臨時に上映されたものです。

大正三(一九一四)年四月一日、前年に開館した劇場「大竹座(古町通八)」が「活動写真」の常設館となつたのを皮切りに、常設館が次々とオープンします。同月の二十八日には電気館(古町通六)、六月にはこんびら館(西厩島町、のち花月劇場)、翌年六月に新潟館(横七番町)、大正八年に丸山館(古町通十二、のちサン劇場、映劇大要)が開館していきま

した。戦時下では映画も統制を受け、昭和二十(一九四五)年一月にはフィルム生産が制限されます。これに伴い、市内は四館を残してほかは休館を命じられました。

終戦後、営業を禁止されていた映画館が再開するところも満員となる盛況だったといえます。それから昭和三十年代前半にかけて映画は黄金時代を迎え、昭和三十三年(一九五八)年には市内映画館の入場者は最多の五八八万人超を記録しました。しかしこれをピークに、テレビの急速な普及に押される形で、映画の需要は激減していきます。

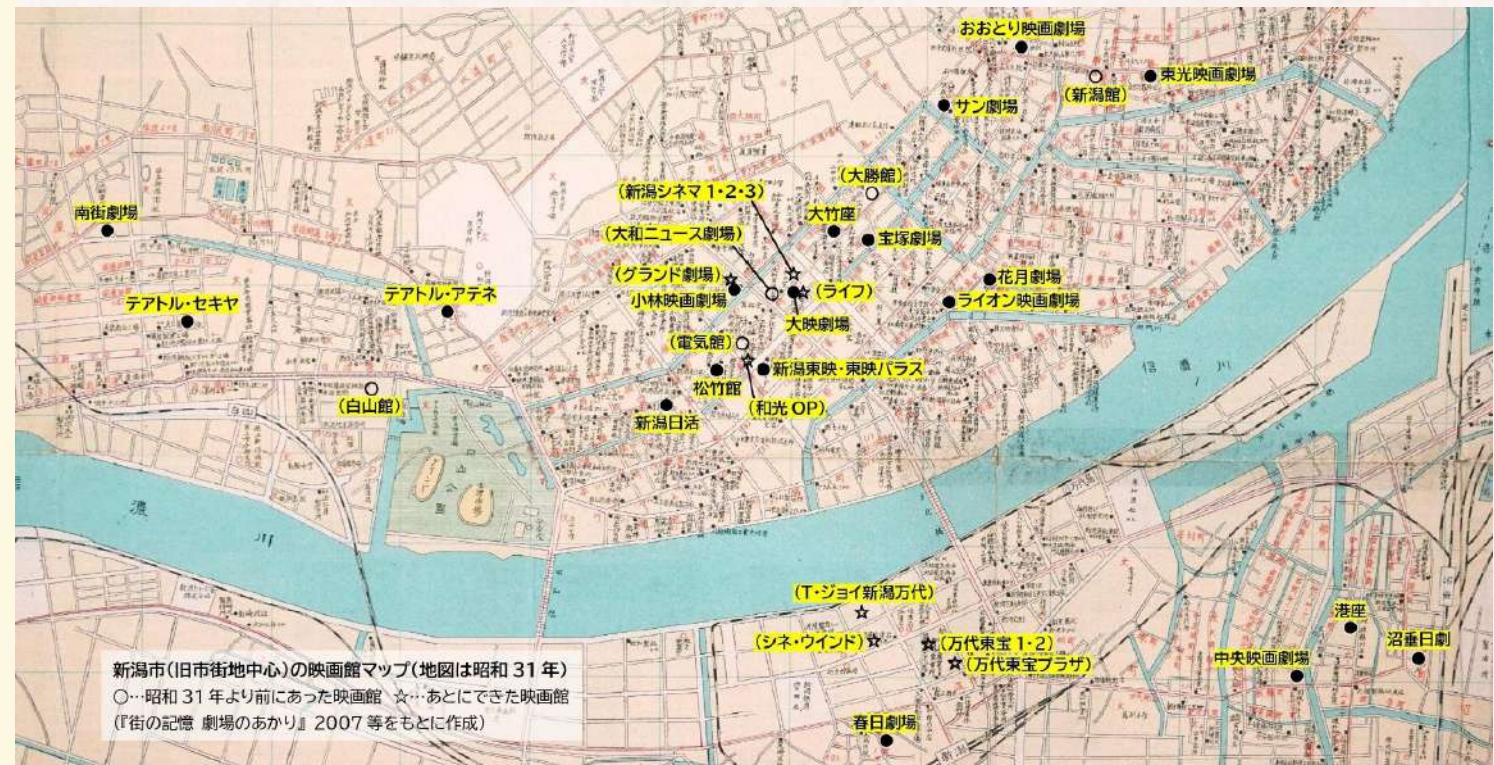
現在では古町周辺の映画館は姿を消し、郊外のショッピングセンターに併設されたシネマコンプレックス(複数のスクリーンをもつ大型映画館)が

主流です。

庶民の娯楽は時代と共に変化、多様化し、いまやテレビもネットの普及に影響を受けつつありますが、大スクリーンで大勢の人々と非日常を共有する映画は、ほかには代えがたい魅力があります。ヒーロー登場に拍手が湧いたかつての活劇、アニメで聴こえてくる子どもたちの笑い声、大作の壮大な自然風景とその色彩、学校での巡回映画や、デートで見た傑作あるいは駄作。映画が日常にあった人々の記憶は鮮烈で、映画の思い出はそれぞれにとって時代そのもの、当時のくらしやさまざまな感情、思考を思い起こさせるようです。

映画を愛し多くの資料を集めてこられたNPO法人にいがた映像ギャラリーおよび新潟娯楽映画同好会の方々の尽力により、新潟市の映画文化を振り返る展覧会を、当館で今年の冬に開催します。映画の黄金期であった昭和時代の幕開けから一〇〇年、昭和二十(一九二七)年には新潟初とされる映画の展覧会が新潟新聞社本社で開催されたこともあり、この節目の年を記念した開催です。

本展では新潟市街の映画館の盛衰をたどり、黄金期の人気映画ベストテンと共に当時の世相を紹介するほか、新潟をロケ地とした映画や、新潟ゆかりの映画人たちの関係資料を展示します。「大竹座」開館一周年の貴重な映像や、昭和二十八(一九五三)年の新潟ロケ映画である「新越後情話」は常時上映会期中は定期的に名画の上映会を実施する予定です。映画看板のライブペイントや、中ノ口村出身の東映初代社長大川博氏について語る対談など、関連イベントにもどうぞご期待ください。(なかむら さとな 学芸員)



新潟市(旧市街地中心)の映画館マップ(地図は昭和31年)  
○…昭和31年より前にあった映画館 ☆…あとにできた映画館  
(『街の記憶 劇場のあかり』2007等をもとに作成)

# 館長日記

新潟市歴史博物館 館長 坂井秀弥



高昌古城の城壁と電動カート(筆者撮影)

## 中国西域の古城で淳足柵をおもう

今年四月に中国の西端、新疆ウイグル自治区を旅行しました。新潟空港発着の五日間の観光ツアーでしたが、上海から空路五時間かかるシルクロードの地、ウルムチとトルファンまで行くことができました。中国のなかでは少数民族のウイグル族が多い地域で、北京時間と時差は大きく、日没はなんと夜九時過ぎです。見渡す限りの砂漠地帯、そのなかのオアシス都市、地下トンネルの水路(カレズ)により開かれたブドウ畑、日干しレンガの建物など、大きく異なる環境と文化が随所に見られます。五回目の訪中でしたが、

じつに新鮮でした。トルファン郊外では、二〇一四年に世界遺産「シルクロード・長安」天山回廊の交易路網に登録された高昌故城と交河故城を訪ねました。いずれもこの地域の核をなす古代城郭都市遺跡です。このうち高昌故城は六四〇年に唐に滅ぼされた高昌国の拠点で、その後唐の城郭となるなど、十三世紀まで使われていたそうです。一五キロ四方ほどの広さがあり、その中に電動カートに乗って回ると、あちこちに崩れかけた、土で築かれた城壁や建物施設が見え、かつての栄華がしのべれます(写真)。

唐の都長安(現西安市)はここから約二〇〇キロ東に位置します。北海道から九州より遠い距離です。唐はこの西域を制圧した後、今度は逆に約二〇〇キロも離れた朝鮮の高句麗に遠征しました。これが引き金となって、日本(倭)では六四五一年、大化改新が断行され、中国にならった律令国家の樹立をめざします。これに続く六四七年、当時の国家北辺の地に淳足柵が造営されました。まるで中国の辺境政策そのものです。新潟から遠く離れた中国西域の故城に立ち、あらためて強大な唐の存在が日本の大化改新と淳足柵造営につながることを実感しました。

### 収蔵資料紹介

## 金塚家資料「西蒲原、中蒲原郡地形図」

昭和二十七年(一九五二)年以降か

研究者が実際に見聞きしたことを手書きしたオリジナルの地図は、その研究者の個性がにじみ出ています。

本資料は金塚友之(明治二十三、昭和四十六)によって、各地で調査した内容をもとに、昭和八年発行の「五万分の一地形図」に情報が書き加えられたものです。

金塚友之(友之)は中学校の地理教員として勤務しながら、新潟県を広く調査した

在野の研究者でした。今年で九十周年を迎える新潟県の郷土誌「高志路」で多くの論考を発表しており、著書には「蒲原の民俗」があります。金塚の業績は民俗学、考古学、歴史学における新潟市域の調査研究にも大きな影響を与えており、当館の企画展においても、金塚の研究資料が展示品として度々登場しています。

金塚の資料の中には、絵図・測量図の写しや、地形図や市街図に直接書き込みされたものが多くみられます。地図をメモとして用いていることから、収集し



かつての潟などが書き加えられている(越後曾根駅周辺を拡大して表示)

た情報を空間的に整理するという金塚の地理的な思考がうかがえます。改めて本資料をみると、書き込まれている内容は、自然、歴史、民俗など多岐にわたり、金塚が幅広い関心のもとで調査を重ねていたことがわかります。地形だけに焦点を当てても、かつて存在した潟沼の位置・深さ、洪水時の破堤箇所、阿賀野川や信濃川の旧河道などが書き加えられています。

なお本資料の一部は「蒲原の民俗」が面白いというウェブページにおいて、現在の地形図と重ねて閲覧できるものが公開されています。(URL: [https://jizoh.info/kanbara\\_no\\_minzoku/index.html](https://jizoh.info/kanbara_no_minzoku/index.html)) (貞沼 良風 学芸員)